

## コーチチャレンジについて

※現状の設備の中で限定して、ローカルルールとして適用する。

→現状の設備は、ゴール裏のカメラ 1 台

---

### 関連条項

---

#### <第 38 条 1 概要>

コーチのチャレンジによって行われるビデオレビューは、「グッドゴール／ノーゴール」の状況でのみ利用でき、その対象範囲は極めて狭いものとされている。

すべてのコーチのチャレンジの状況では、氷上での最初のコールが明らかに正しくないという決定的で反論の余地のない判断が、映像証拠に基づいてなされた場合に限り、最初のコールが覆される。

レビューが決定的でない場合や氷上のコールが正しいかどうかについて疑問がある場合は、氷上の最初のコールが確定される。

- 1 回目のコーチチャレンジ失敗はマイナー、2 回目以降はダブルマイナー(いずれもディレイのベンチマイナーペナルティ)を科す。
- チャレンジはプレーヤー、チームスタッフいずれからでもできるが、プレーヤーから言われた場合、コーチに必ず確認する。
- チャレンジ検証中、全員ベンチに戻る。

#### <38.4. コーチチャレンジ開始のプロセス>

コーチチャレンジはすべて、「ゴール」後のセンターアイスでのフェイスオフの前に、口頭でレフェリーに伝えて開始しなければならない。

チームは、コーチチャレンジを開始するかどうかを検討する間に、プレーの再開を不当に遅らせてはならない。このような遅延または遅延の戦法は、チャレンジする権利を否定することになり、レフェリーの裁量により、第 63 条「試合の遅延」に対するマイナーペナルティが科されることもある。

レビューのプロセスを早めるため、コーチチャレンジを開始するコーチは、チャレンジの理由（すなわち、主張する実際の反則）を、妥当な具体性をもってレフェリーに提供する必要がある。この情報を妥当な具体性をもって提供できない場合は、コーチチャレンジの権利が認められないことがある。

注：コーチのチャレンジは、1 回のプレー中断につき 1 チーム 1 回のみ認められる。

- ゲーム・オフィシャルは、チームがチャレンジした状況についてのみレビューを行うことができ、それ以外のことはできない。
- コーチチャレンジは、チームがチャレンジしたい特定の状況だけに限定して指定されるべきである。

---

### チャレンジの対象とする事象（ローカルルール）

---

①キックショット

②インクリーズ

③ハンドパス（カメラの画角外で確認できない場合、そのチャレンジは「行われなかったもの」とする。氷上の最初のコールが確定される。）